

事業名 ^{たかしま} 高島地区新マリノベーション
拠点交流促進総合整備事業

離島の炭坑閉山地域において、「石炭を魚に変えて島おこし」をキャッチフレーズに、水産業と海洋性レクリエーションを中心に地域振興を図った漁港関係事業であり、地元や島外の住民から評価の高い事業

受賞機関 長崎県高島町
事業実施期間 平成3年4月1日～平成13年3月31日
事業費 6,896百万円

事業等の特徴

本事業は、炭坑が閉山された長崎の離島、高島において、水産業と海洋性レクリエーションの振興により活性化を図った総合事業であり、漁港修築事業では航路・港内の静穏度を向上させる防波堤、海岸環境整備事業ではファミリー向けの人工海浜、漁港環境整備事業では初心者でも楽しめる磯釣り公園を整備した事業である。平成9年7月に仮オープンした人工海浜及び磯釣り公園は、平成12年末までの3年余り、予想を上回るそれぞれ延べ4.8万人、6万人の利用者が訪れており、宿泊施設等へのアンケート調査によると消費金額は約3倍に増加しており、高島町の活性化に大きく寄与した事業である。

事業の概要と利用者等の評価

高島町は、長崎港から南西14.5km、高速艇で35分足らずの高島に位置する町である。石炭産業を基幹産業として117年間1島1町1企業の特種な町として発展してきたが、昭和61年11月に炭坑が閉山し、関連する商業等の産業も壊滅的な打撃を受け町勢は衰退し、人口はピーク時に約22,000人を超えていたものが、平成13年1月現在974人と激減した。町の活性化を図るため南風泊漁港において、「新マリノベーション拠点漁港漁村総合整備事業」計画を策定し、水産業と海洋性レクリエーションの振興を中心とした総合的な振興策の実施に町の再生をかけた。

平成12年度までに、海岸環境整備事業では都市住民に海洋性レクリエーション環境を提供することを目的に、養浜、ウッドデッキ、休憩所、管理棟（温水シャワー等）緑地広場を整備し、人工海浜内での終日滞在利用を可能にするとともに、地域住民の就労機会を確保した。

漁港修築事業及び漁港環境整備事業では、高島本島より約340mほど離れた飛島に向かって防波堤を建設することにより航路・港内の静穏度を向上させるとともに、それに沿って遊歩道、釣り桟橋などの磯釣り公園を整備した。色彩には、自然との調和を



釣り大会の風景

図っている。

町の活性化策が待ち望まれていたことから、南風泊漁港を中心とした本事業の計画立案と実施は、地域住民及び関係機関に極めて好意的に受け入れられた。磯釣り公園については、幅広い年齢層を利用対象として整備され、公園内は、エントランス、磯遊び、磯釣り、ゴロタ磯、展望の各ゾーンに区分されている。

人工海浜については、磯釣り公園と一体化した遊泳面積2万㎡でリゾート感覚が楽しめるものとなっている。利用客は毎年7、8月に約15,000人と盛況で、イベント開催時には1日1,100人の利用があり、これは町の人口の2倍以上である。

本事業により、施設利用者が予想を上回るペースで来島しており、流入人口が増えるとともに、地場製品の消費拡大が図られている。町が平成10年度に実施した経済波及調査では、宿泊施設、海水浴場売店等へのアンケート調査によると店舗数、仕入先、雇用等には大きな変化はないが消費金額自体は約3倍になった。このように、本事業は高島町の活性化に大きく寄与している。

審査委員会委員の意見等

- ・街の活性化に対する高い貢献度（経済波及効果）を評価したい。町民の意識変容のデータがあればより一層、まちづくりへの寄与が見えてくると思われる。
- ・よいものができているが、B/Cはどうか？
- ・水産業と海洋レクリエーションの2つを柱にすえた振興策で、街への流入人口の拡大や消費の活性化など目に見える効果を上げている。
- ・地域を承知しているので、活性化策が待ち望まれていた点は充分理解でき、通年型の集客構造づくりのポイントとなっている点で事業評価が高い。
- ・過疎化が進む離島の町おこしと、余暇時間の増大を海洋性レクリエーションに求める都市型の行動パターンを上手く融合させ、多数の利用者を集め地場産業の振興につなげたことは評価できる。

受賞賛助会員 三菱建設(株)長崎営業所、若築建設(株)長崎営業所